あいのその　2024 年 3 月号

「わたしは復活であり、命である。」

（ヨハネによる福音書　11 章 25 節）

愛の園保育園　042-325-1045

今年は暖冬だったため、桜の開花が例年より早いのではないかと言われていますが、春はいろいろな花が咲き、私たちを楽しませてくれます。キリスト教会にとってもっとも大切な行事であるイースター（復活祭）は、その年によって日程に 1 ヶ月ほど開きがありますから（3 月下旬～4 月下旬、2024 年は 3 月 31 日）、たとえば桜がまだ咲いていないときもあれば満開のときもあり、ほとんど散ってしまっているときもあります。

聖書の中にもいろいろな花が出てきますが、かつて歌われていた讃美歌に「シャロンの花」という曲がありました。聖書に登場する「シャロンの花」をイエス・キリストに見立てて謳っているのですが、このシャロンの花というのはチューリップのことだったのではないかと考える聖書学者もいます。イスラエルの国では「シャロンのチューリップ」という絵が描かれた切手もあります。チューリップには「人を分け隔てず、みんなを愛する」という花言葉がありますから、そう考えると、確かにイエス・キリストを象徴しているように思えてきます。しかし、イエスがチューリップと重ねて考えられるのは、それはただチューリップが美しく立派に咲く花だからではありません。チューリップは、もとは小さな球根です。当然、それが土の中に埋められなければ、花は咲きません。芽が出るまでは、本当に美しく咲くのかどうかもわかりません。イエス・キリストも、それと似ています。イエスはこの世に生まれ、福音を語り、弱い者の傍にいつも共にいてくださいました。しかし、それをよく思わない人々に捕えられ、十字架につけられて殺されてしまいました。真っ暗な墓の中に、捨てられるようにして入れられてしまったのです。その姿は、外からはもう見えなくなってしまいました。しかしそこから、それこそ地中に埋められたチューリップの球根のように、泥だらけの小さく弱々しい姿で、しばらく真っ暗闇の中にいたけれども、神が決めたときが来ると甦ったのです。

イエスが墓にはもういない、ということは、私たちといつも一緒にいてくださる、ということです。それがイースターの出来事です。春は新しいいのちの季節、新しい始まり、新しい出会いのときです。神さまが私たち一人ひとりの心を、春の花が咲くようにして喜びで満たしてくださるのです。（牧師　西脇　正之）